

令和7年度 全国学力学習状況調査報告分析結果

【教科に関する調査の結果にみられる特徴と現状分析】

○国語科の調査結果にみられる成果と課題

結果を見ると、すべての項目において全国・県よりも正答率が高い。「C 読むこと」の結果から、文章読解についてはある程度の定着がみられる。その一方で、「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」は低めになっている。全国比と比べて決して低いわけではないが、活字に触れる機会の減少に伴って、語彙や言語能力が伸び悩んでいるのではないかと考えられる。選択式の問題は全国平均より上回り、記述式の問題は平均を大きく上回っているが、短答式は平均よりやや上回る程度にとどまっている。言語に関する知識とそれを活用して思考力・判断力・表現力を用いて記述・言語化する能力を伸ばす必要があると考える。

○数学科の調査結果にみられる成果と課題

結果を見ると、「B 図形」においては、全国平均より上回っているが、他の項目に比べるとやや数値が落ちる。すべての項目において全国・県よりも正答率が非常に高い。特に「A 数と式」においては全国平均より大きく上回っている。選択式・短答式・記述式のどの解答方法でも全国平均よりかなり上回っている。この結果から、小学校の時から学習が定着しており、中学校においても既習事項と結びつけながら学習を行っていると考えられる。しかし、生徒質問紙においては、教科に関する調査に比べると高い数値ではなかったため、日頃の授業において興味関心をより高める工夫をすることで、さらに成果が上がると考えられる。



○理科の調査結果にみられる成果と課題

結果を見ると、「エネルギー」の領域と「粒子」の領域の1分野は正答率が高いが、「生命」と「地球」の領域の2分野の範囲では正答率が低い。「エネルギー」や「粒子」の領域では、授業において観察や実験などの体験活動が多く、主体的に体験活動に取り組むことで印象に残り、知識が定着していると考えられる。また、実験結果をもとに考察し理解を深めているところが調査結果につながっていると考えられる。第2分野の「生命」「地球」の領域では、観察を行っているが考察で理解を深められる内容とそうでない内容があるため、知識の定着が薄いように見受けられる。

○生徒質問紙の調査結果にみられる成果と課題

生徒質問調査における、教科を中心とした学力・学習状況の結果を見ると、全体的な得点率は県平均を上回っている。特に、ICTを活用した学習状況調査、国語に関する意識、理科の学習活動の項目が特に得点率が高い。国語・理科・数学の3つの教科を比べると、数学に関する意識や数学の学習活動の項目の得点率が低く、理科・国語に比べると改善の余地が見られる。

生徒質問調査における、その他の学力・学習状況の結果を見ると、おおむね県平均を上回る得点率となっている。ただし、自己有用感等の項目のみ、県平均を下回っている。教科に関する調査では、国語・理科・数学の正答率が全国平均・県平均を大きく上回っているのに対し、生徒質問調査における学習に関する意識は低めの得点率となっている。また、主体的な学習の調整の得点率は県平均とほぼ同じであり、正答率の割に、主体的に学びに向かう姿勢が低い状況が読み取れる。

【改善目標・改善策・検証方法】

○改善目標

【国語】

継続した読書活動を通じて、言語能力・語彙力の向上を図る。

協働的な学習を取り入れ、自分の考えを発信する学習活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力の素地を養う。

【理科】

学習意欲を高める学習課題の設定を行う。

協働的な学習を取り入れ、課題解決を目指す。

【数学】

協働的な学習を取り入れ、全員が課題を解決できるようにする。

学習意欲を高め、様々な課題に触れる機会を作る。

【質問調査】

地域や保護者とのこまめな連携を図り、地域全体で生徒の学びや成長を支援する環境づくりに励む。

継続した取り組みを実施し、学校としての信頼をより高めていく。



○改善方策

【国語】

委員会活動と連携して、学級文庫を配り、本や活字に触れる機会を増やす。

ICTの活用や班別活動、ジグソー活動などを行い、意見の交流や考えを発信する場を授業内で設定する。

【理科】

第2分野の「地球」の領域で、アクティブラーニンググループを使用し、協働的な学習を行う。

確認テストを小单元ごとに行い、学習習慣の定着を目指す。確認テストは約2週間に1度実施していく。

【数学】

ミライシードやKahootなどを利用し、意欲を高めつつ、様々な問題に触れる機会を单元ごとに設定する。

生徒全員が課題に取り組み、理解できるようにするために、生徒同士で教え合える場を毎時間設定する。

【質問調査】

ホームページや学校便りの工夫等、情報発信の手段や内容を改善していく。



○検証方法

【国語】

授業プリントや振り返りなどを通じて、生徒の思考の過程を可視化する。

到達度テストや小テスト、記述内容から生徒の言語能力とその活用について確認し、評価する。

【理科】

到達度試験や確認テストを行った際に、定着できているか確認し、評価する。

【数学】

到達度試験・単元テスト・実力テストを行った際に、定着できているか確認し、評価する。

【質問調査】

日々の生徒の表情や会話、生活記録帳、心のノートなど様々な観点から生徒の変化を見取る。

年に2回実施しているQU調査や6月の教育相談、10月の2者・3者面談などで生徒の様子を把握し、全職員で情報共有を行う。学年・学校全体で生徒をサポートする体制を構築する。